

財団へ直接応募

(工学研究科)

公益財団法人岩谷直治記念財団

「第 52 回(2026 年度)岩谷国際留学生奨学助成」

応募及び採用の際は国際交流係までお知らせください。

2025.11.20

1 応募資格・・・次のすべてに該当する者

1) 以下の国・地域からの私費留学生

東アジア: 中国、韓国、モンゴル、台湾

東南アジア: カンボジア、インドネシア、ラオス、マレーシア、ミャンマー、フィリピン、
シンガポール、タイ、ベトナム

2) 2026 年 4 月 1 日時点で大学院博士前期課程または博士後期課程在籍者、並びに入学決定者。

3) 2026 年 4 月 1 日時点の年齢が博士前期: 満 30 歳未満、博士後期: 満 35 歳未満の者。

4) 自然科学系及び関連する学際分野を専攻している者。

5) 2026 年 4 月 1 日以降、他からの奨学金を受けない者

6) 年 5 回開催する奨学生例会に参加できる者。

7) 奨学期間中に他国への短期留学、交換留学等により日本を離れる予定のない者。

8) 奨学金受給終了後も当該財団と継続して通信等できる者。

9) 日本語で日常の会話ができる者。

Japanese ability which can carry daily conversation is required to apply.

2 支給額及び支給期間

月額 15 万円。

2026 年 4 月より在籍している課程の標準年限までの最長 2 年間。別に学会発表のための旅費等を補助。

3 採用人数: 全国で20人程度

4 提出書類・・・要項をよく読み準備すること。申請書類は財団 HP より入手すること。

1) 経歴書(様式1)

2) 身上書(様式2)

3) 研究計画/その他(様式3)

4) 自己紹介(様式4、手書き)

5) 推薦状(様式5)

6) 在学証明書又は入学許可書

7) 成績証明書

8) 健康診断書

※岩谷直治記念財団 HP <http://www.iwatani-foundation.or.jp/scholarship/>

5 応募先: 財団 HP より書類を提出。

6 募集期間: 2025 年 12 月 1 日(月)～2025 年 12 月 20 日(土)

※応募および採用の際は国際交流係へお知らせください。

第52回（2026年度）

岩谷国際留学生奨学助成 募集要項

岩谷国際留学生奨学助成は、海外から来日している留学生で、将来わが国と親密な関係を保ち、親善・交流の実を期待しうる人材にその機会を提供し、留学生生活を援助することにより、科学技術全般の一層の発展を図り、国際間の相互協力と理解を深め、双方の国民生活向上に寄与することを目的とします。

1. 応募資格

応募者は、学業成績が優秀であって、留学生生活上、経済的援助を必要とし、次の全ての条件に該当する者としてします。

- (1) 日本以外の国籍を有し、東アジア・東南アジアの国・地域から修学または研究のために留学ビザで来日している私費留学生（2026年4月1日時点で国費留学生ではないこと）
＜応募資格に該当する国・地域＞
 - ①東アジア：中国、韓国、モンゴル、台湾
 - ②東南アジア：カンボジア、インドネシア、ラオス、マレーシア、ミャンマー、フィリピン、シンガポール、タイ、ベトナム
- (2) 2026年4月1日時点で日本に在住し、大学院の修士課程または博士課程に在籍している者または入学決定者
- (3) 自然科学系および関連する学際分野を専攻している者
＜応募資格に該当する自然科学系および関連する学際分野＞
工学、理学および農学の全般、ただし、医学、薬学は除く
- (4) 2026年4月1日時点の年齢が修士課程は満30歳未満、博士課程は満35歳未満の者
- (5) 2026年4月以降、他機関からの奨学金や研究支援金等を受けない者
（但し、大学からの月額10万円未満の奨学金等は除く）
- (6) 奨学金支給1年目に5回開催する奨学生例会に年間を通して出席し、奨学生としての義務を果たせる者（詳細は、「3. 奨学生の義務」を参照）
- (7) 奨学期間中に他国への短期留学、交換留学等により日本を離れる予定のない者
- (8) 奨学金支給終了後も当財団との関係を継続する意志のある者
- (9) 国際交流と親善に貢献しうる者

(10) 日本語で日常の会話ができる者（当財団での使用言語は日本語のみ）

2. 助成の内容

(1) 採択者数と奨学金

採択者数は15～20人程度とし、奨学金は1人当月額15万円。

別途、例会出席および学会発表のための旅費などを補助します（学会発表のための旅費の補助は奨学金支給期間中に1回のみ）。

本奨学金は返還の必要はありません。ただし、「2. 助成の内容（3）奨学金の停止」に掲げる事項に該当する場合は、すでに支給済の奨学金の返還を求める場合があります。

(2) 支給期間

奨学金の支給期間は、2026年4月1日より標準年限までの最長2年間とします。

支給期間内に在籍する課程を修了し学位を取得した時は、たとえ支給期間が2年間に満たない場合であっても、学位取得月を最後に奨学金の支給を終了します。但し、修士学位を取得後、博士課程に進学が決定している場合は、通年で最長2年間の支給期間とします。

また、財団が認める特別な理由を除いて、支給期間の延長はありません。

(3) 奨学金の停止

次の①から⑦に該当する場合は奨学金を打ち切ります。特に①および②の場合、次年度より奨学生の在籍校を応募対象から除外することがあります。

- ①素行不良、その他当財団の名誉を傷つけた者
- ②略歴、身上など本人の申告事項に虚偽の事実が判明した者
- ③病気などの事由により、修学または研究を継続する見込みのない者
- ④2ヶ月以上音信がない者
- ⑤正当な理由なく例会を欠席した者
- ⑥奨学生の義務が果たせない者
- ⑦その他、応募資格に反する事実が後に判明した者

3. 奨学生の義務

(1) 奨学金支給1年目に5回開催する奨学生例会（うち1回は2泊3日の研修旅行）に出席すること。

(2) 奨学金支給2年目の例会は開催しないが、2か月に一度、研究の進捗状況を指定の書式にて当財団に報告すること。また、1年間に一度以上、当財団に来訪し直接報告すること。

- (3) 学会発表のための旅費を申請する者は、「学会出席旅費申請書」を提出すること。
また、学会出席後には「学会出席報告書」を提出すること。
- (4) その他、当財団からの指示には速やかに対応すること。

4. 応募方法

(1) 提出書類

応募者は次の書類を作成の上、当財団ホームページから提出して下さい。

様式1～5の書類は、当財団ホームページからダウンロードが可能です。

- ①経歴書（様式1）
- ②身上書（様式2）
- ③研究計画／その他（様式3）
- ④自己紹介（手書き）（様式4）
- ⑤推薦状（様式5）（※詳細は「6. 推薦教官へのお願い」参照）
- ⑥在学証明書

入学予定の留学生は、当該大学の入学許可証または合格通知書

⑦成績証明書

日本の大学および大学院の成績証明書、無い場合は母国のもの

⑧健康診断書

2025年4月以降の健康診断書または大学の保健センター等が発行する
健康診断書

<記入上の注意>

- 1) 書類は日本語で記入して下さい。
- 2) 書類不備（各様式の記入漏れ、添付書類の不足・不備等）は、大きな減点、または失格となりますので、送付前に十分確認して下さい。
- 3) 様式4は、黒インクまたは黒ボールペンを用いて必ず応募者本人が手書きで記入して下さい。代筆は認めません。

(2) 募集期間

2025年12月1日（月）～2025年12月20日（土）

(3) 応募方法

「岩谷直治記念財団 WEB 申請システム」から提出して下さい。

5. 選考方法と結果の通知

選考は下記要領で行います。

(1) 第一次選考（書類審査）

第一次選考として、書類審査を行います。

選考結果（合格、不合格）は、2026年1月下旬に通知します。

(2) 第二次選考（面接審査）

第一次選考の合格者には、2026年2月上旬頃に面接審査を行います。

使用言語は日本語のみとし、日本語による会話力を重視します。選考結果（内定、補欠、不合格）は、2026年2月中旬頃に通知し、内定者には「誓約書」を送付します。

内定者は、2月末までに「誓約書」に応募者本人と指導教官の記名、捺印の上、当財団に提出してください。「誓約書」を受領次第、「採択決定通知書」を発行します。

修学の継続が見込めない場合を除き、「誓約書」提出後の辞退は認めません。

また、2026年2月末までに「誓約書」の提出がない者は、自動的に内定取り消しとなり、次の補欠合格者を繰り上げ内定とします。繰り上げ内定の連絡を受けた者は、2026年3月15日までに「誓約書」を提出して下さい。

補欠合格者の最終結果については、2026年3月末までに通知します。

なお、選考結果に関する問合せには、一切お答えできません。

6. 推薦教官へのお願い

(1) 推薦状（様式5）のご記入

推薦教官は応募者の研究能力、研究への取り組み姿勢、学位取得・修了の見込みおよび将来性、人物像、日本語の語学力等を推薦状（様式5）にご自身で記入して下さい。

2026年4月に大学院に進学・編入学する学生は、進学前の指導教官による推薦状も可とします。

(2) 書類送付前のご確認

書類不備（各様式の記入漏れ、添付書類の不足・不備等）は、大きな減点、または失格となりますので、応募者とともに、十分確認して下さい。

(3) 奨学金支給開始後のご協力とお願い

応募者が奨学生に採択された場合は、奨学金支給開始後に、当該奨学生の研究進捗状況や今後の見通し等についてお尋ねする場合がありますので、ご協力をお願いします。また、奨学金支給1年目に5回開催する例会への出席義務を始め、

「3. 奨学生の義務」に記載された事項を当該奨学生が順守するよう、ご指導をお願いします。なお、奨学金はあくまで学位取得を支援するために支給するものですので、もし例会開催日程と学会発表等、学位取得に直結する学内外の重要日程とが重複した場合には、学業を優先して下さい。

7. 個人情報の取り扱い

提出された個人情報は、原則として利用目的の範囲内で、かつ業務遂行上必要な

限度内で利用します。法令等の定める場合を除き、事前に本人の同意を得ることなく、個人情報を第三者に提供しません。また、収集した個人情報は、当財団の定める個人情報保護に関する基本方針に基づいた取り扱いを徹底します。

《 本件に関する問合せ先 》

公益財団法人 岩谷直治記念財団

住所 : 〒100-0011

東京都千代田区内幸町2丁目2番3号 日比谷国際ビル18階

電話 : 03-6225-2400

FAX : 03-6910-2980

担当 : 常務理事 江田一道 (Kazumichi EDA)

事務局長 金田充弘 (Mitsuhiro KANEDA)

E-mail : information@iwatani-foundation.or.jp

URL : <https://www.iwatani-foundation.or.jp/>

以上

※この様式2はパソコン入力も可能ですが、書式は変更しないで下さい。

様式2

身 上 書

2025 年 月 日 現在

1. 経済状況

最近1年間の収入額と支出額を平均し、1ヶ月相当分を記入して下さい。

※故意な事実と異なる記載が判明した場合には、採用を取り消し、奨学金の返還を求める場合があります。

1) 1ヶ月の平均収入額

① 家族からの仕送り	円/月	
② 奨学金(本人)	円/月	
③ 給与(アルバイト)	円/月 → どんなアルバイトですか?	RA / TA / その他()
④ 自分の預貯金を使用	円/月	
⑤ その他収入	円/月 → どんな収入ですか?	配偶者給与 / 配偶者奨学金 / その他↓
収入額合計 (a)	円/月	その他の内訳

2) 1ヶ月の平均支出額

(↓○印または記入して下さい)

① 家賃	円/月 → 住んでいるところは?	寮 / アパート / その他()
② 学費	円/月	
学費免除の有無		全額免除 / 一部免除 / 免除なし
		免除期間: 年 月 ~ 年 月
③ 食費	円/月	
④ その他生活費	円/月 → 電気・ガス・水道・携帯・交通費・図書費などの合計金額を記入	
⑤ 預貯金	円/月	
支出額合計 (b)	円/月	

3) 収支差額 (a-b)

円/月

2. 家族状況

(両親・兄弟姉妹を記入して下さい。既婚者は配偶者・子女も記入して下さい。)

続柄	家族の氏名	年齢	居住地 (国・都市名)	職業名 (学生は学校名)

3. 奨学金

2025年12月時点で受給している奨学金や研究支援金等を記入して下さい。 ない場合は、「なし」と記入して下さい。

団体名 受給期間 年 月 ~ 年 月

岩谷財団以外に応募している(予定も含む)奨学金を全て記入して下さい。 ない場合は「なし」と記入して下さい。

奨学団体名

第52回(2026年度)岩谷国際留学生奨学助成

様式1

※この様式1はパソコン入力も可能ですが、書式は変更しないで下さい。

経 歴 書

2025 年 月 日 現在

来日した年 年 月
(日本に来てからの通算年数 年 ヶ月)

1. 学 歴 (高校から現在までの学歴を記入)

学校区分	学校名・所在地(国・都市名) (例) ○○○○高校 (例) 中国 大連市		入学・卒業年月	専攻科目	取得学位 又は資格
高校	学校名		入学 年 月		
	所在地		卒業 年 月		
高等専門 学校	学校名		入学 年 月		
	所在地		卒業 年 月		
日本語学校	学校名		入学 年 月		
	所在地		卒業 年 月		
大学	学校名		入学 年 月		
	所在地		卒業 年 月		
大学院 修士課程 (博士前期)	学校名		入学 年 月		
	所在地		修了 年 月		
大学院 博士課程 (博士後期)	学校名		入学 年 月		
	所在地		修了 年 月		
備考:補足説明等があれば、記入して下さい。					

2. 職 歴 (アルバイトは記入不要です。)

	勤務先・所在地(国・都市名) (例) ○○○○株式会社 (例) 日本 大阪市		勤務期間	勤務内容	役職名
1	勤務先		年 月 ～ 年 月		
	所在地				
2	勤務先		年 月 ～ 年 月		
	所在地				
備考:補足説明等があれば、記入して下さい。					

※この様式3はパソコン入力も可能です。

様式3

※各項目の行数、フォント等は必要に応じて変更できますが、枚数は **A4サイズ縦で2枚以内** とします。

研究計画／その他

2025 年 月 日 現在

1. あなたの研究について、簡潔に説明して下さい。

--

2. あなたの研究計画と、目標とする研究成果について説明して下さい。

--

3. あなたが第一著者として発表した論文の本数を記入して下さい。

第一著者論文の本数:

その内、査読付き論文 (peer-reviewed) の本数:

--

4. 第一著者ではないが、発表した論文の本数を記入して下さい。

第一著者ではない論文の本数:

その内、査読付き論文 (peer-reviewed) の本数:

--

5. 学会発表の回数を記入して下さい。

--

6. 学位取得後2～3年先のプランを記入して下さい。(現在修士の人は進学か就職かを記入)

--

7. 5～10年先のプランを記入して下さい。

--

8. あなたは今後、母国と日本との交流に、どのように関わっていきたいと考えていますか？

--

※この様式4は本人が手書きで作成すること。

様式4

※書式は変更しないでください。

自己紹介(手書き)

2025 年 月 日 現在

1. あなたの長所について、手書き(日本語)で記入して下さい。

2. あなたが岩谷直治記念財団の奨学金を必要とする理由について、手書き(日本語)で記入して下さい。

3. その他、あなたが伝えたいことについて、自由に手書き(日本語)で記入して下さい。

推薦教官各位：1. 推薦教官ご自身でご記入いただき、応募者経由でご提出下さい。

様式5

2. 全ての質問項目を満たしていれば、書式を変更しても結構です。他言語の場合は和訳を添付して下さい。

推薦状

作成日 2025 年 月 日

応募者の所属： 応募者の氏名：

私は上記の学生を貴財団の奨学助成対象者として以下の通り推薦いたします。

1. 研究能力について
2. 研究への取り組み姿勢について
3. 学位取得・修了の見込み及び将来性について

4. 人物像について

5. 日本語の語学力について

(当財団での使用言語は日本語です。日本語能力試験を受験している場合は、レベルを明記して下さい。)

6. その他、特記事項

推薦教官のご所属(大学/研究科/学科)

お役職

お名前

印

※応募者本人の進学等の事情により入学先での指導期間が短い場合は、従前の指導教官による推薦を認めます。